

6 映像を調節する

プロジェクタの映像を調節する方法については、P 5 からの「コンピュータとプロジェクタ、6 映像を調節する」に記載してあります。そちらを参考にしてください。

留意点について

1 投写した写真や図をはっきり見せるためには

写真や図を乗せる書画カメラのステージ上が明るくなければ、投写された映像も暗くなり写真や図が見にくくなってしまいます。書画カメラの照明をつけるか教室を明るくして使用しましょう。

書画カメラ自体にステージ上を照らす照明が付いている機種があります。このような機種であれば照明を使用することにより写真や図をはっきり見えるように投写することができます。

書画カメラ自体に照明が付いていない機種の場合は教室を明るくして使用しましょう。教室の電気をつければ書画カメラのステージ上は十分明るくなります。

教室の電気をつければスクリーンが見にくくなるのが気になりますが、P11の「コンピュータとプロジェクタ 留意点について 授業で使用する前に 1 画面の明るさと教室の明るさ」に記載してあるとおり、プロジェクタの種類によっては教室を暗くしなくても十分にスクリーンを見ることがありますので、明るい教室で使用することができます。

照明が付いていない書画カメラを使用するときには、事前に教室で投写し授業で使用するときに不都合がないか確認しましょう。

< 照明あり >



< 照明なし >



2 「書画カメラ」?

留意点ではありませんが、「書画カメラ」って何?と思う方がいるかもしれません。「書画カメラ」は「教材(資料)提示装置」「OHC(OverHeadCamera)」「実物投影機」等とも呼ばれている装置です。呼び方が異なるからといって性能や使い方が異なるわけではありません。どれも基本的に、写真や書類や立体物などを上からカメラで撮影し、その映像をプロジェクタなどで映し出す装置です。